

第6回東京都北区産業活性化ビジョン検討委員会 議事要旨

第1部会

- 日 時：令和7年7月16日（水）18時15分～19時00分
- 場 所：北とぴあ7階 第1研修室
- 出席者：中村部会長、田中光委員、丸野委員、田村委員、田中崇彦委員、田中和江委員、中林委員、佐脇委員、山岸委員（欠席：溝口委員）

1 開会

2 部会の総括

（事務局）

- ・まず、資料1をご覧ください。前回の検討委員会では、「商店街」及び「区民」をテーマに、「強み」「弱み」「想定される政策」に関するご意見を頂戴した。前回皆様からいただいたご意見を、テーマごとに「強み」「弱み」「想定される政策」に分類し、整理したものが資料1になる。資料1の最後のページに「まとめ」として表でご意見を整理している。事務局においてこのように整理させていただいたので、ご確認いただきたい。
- ・また、前回の議事要旨として資料2を作成しているので、こちらは後ほどご高覧いただければと思う。
- ・それでは、部会の総括に移らせていただく。総括は、部会長からご説明いただくか、または、事務局から説明することもできるが。

（部会長）

- ・今回は事務局から説明させる。

（事務局）

- ・承知した。それでは事務局からご説明する。
- ・資料3をご覧ください。これまで、第1部会において、皆様からいただいたご意見を事務局でとりまとめさせていただいた。部会の総括では、北区産業の状況を振り返りつつ、北区産業の課題の整理、課題を踏まえた対応策、北区産業の将来像について説明していく。
- ・資料3の1ページをご覧ください。始めに「区内産業を取り巻く変化」になるが、こちらは、基礎調査報告書の内容のおさらいとともに、部会でのご意見も一部含まれている。
- ・まず、「人口動態面」の主な変化として、「若年層における流入人口の増加」、「子育て世帯の流入」、「単身世帯の増加」、「外国人住民や外国人商店主の増加」などを挙げている。
- ・2ページをご覧ください。次に「産業面」の主な変化として、「区内の事業所数・従業者は横ばいから減少傾向（区内での働き場所の減少）」、「区内の商業活力の低下」、「地域内での経済循環率の低下」、「区内事業者同士の取引やネットワークの希薄化」、「学生等の地元就職志向の向上（「職住近接」の働き方）」などを挙げている。
- ・続いて、3ページをご覧ください。「区内産業の課題」になる。第1部会において、これまで皆様からいただいたご意見をもとに、北区産業の課題を整理している。まず「製造業」の課題として、「北区の製造業」というイメージ自体が希薄であること、情報発信・ブランディングの弱さ、事業者同士のつながりやネットワークが希薄であること、技術・付加価値面の課題などを挙げている。
- 次に「非製造業・商業」の課題として、製造業と同様の経営課題に直面していること、人口動態・消費内容など、周辺環境の変化への対応が必要になっていること、観光産業と地域商業の連携不足、商店街間の連携不足、事業所の区外転出による産業の担い手の流出、人材確保・育成の必要性などを挙げている。

最後に「産業全般に関する共通課題」として、北区産業全体としてのブランドイメージの確立・情報発信の必要性、異業種・異分野間での連携不足、地域内消費の低下、産業や地域組織における高齢化・後継者不足、外国人住民との共生の課題、地域産業を牽引する「キーパーソン」の発掘・育成の必要性などを挙げている。

- ・続いて、4ページをご覧ください。「課題を踏まえた対応策」になる。4ページは、3ページで挙げられた課題を踏まえた対応策を整理している。

ポイントは、次の3点になる。1点目、「北区産業のブランドイメージの確立・情報発信」。これまでも委員の皆様から、北区産業のイメージ、北区のブランドイメージがあまりないとのご意見を賜り、我々事務局としてもその点は課題と捉えている。そこで、北区産業のブランドイメージを確立するとともに、ブランドイメージを効果的に発信することにより、区内事業者の競争力向上とビジネスチャンスの創出につなげる、というご意見ではないかと考えている。

2点目、「連携促進、変化への対応による経済の好循環の創出」。事業者間の連携、あるいは事業者と住民との連携など、連携についても、委員の皆様から多くのご意見を賜った。区内産業の活力を高めるためには、区内事業者同士の交流と連携が重要である。区内事業者同士の交流会や各種勉強会を積極的に開催し、区内事業者間の交流・連携を深めることで、北区産業全体の底上げを図ることができ、また、事業者だけでなく、例えば、商店街と学生の連携により、地域に新たな視点や活気をもたらすことができる、というご意見ではないかと考えている。

「変化への対応による経済の好循環の創出」については、近年では大型小売店の進出やインターネット通販の普及などが地域商業に大きな影響を与えており、地域内経済の循環にも影響を及ぼしている。そこで、外部環境の「変化」への対応力を底上げすることにより、変化に強い産業をつくりあげ、ひいては、区内経済の好循環を創り出すことができる、というご意見ではないかと考えている。

3点目、「北区というまちへの愛着（シビックプライド）の醸成」。部会においては、区民の方が地域への愛着を持つことの重要性についてのご意見を賜った。区民の方が、「北区はいいところ」「北区は住みやすい」と愛着を持ち、その影響で徐々に人口の増加や北区への定住が進み、その波及効果で地域内消費が促進され、区内経済の好循環を創り出すことができるとともに、地域への愛着の醸成は、地域キーパーソンの増加にもつながり、そうしたキーパーソンによる産業魅力の創出にもつながるのではないかと、というご意見ではないかと考えている。

- ・ただいまご説明した3点について、もう少し具体的に見ていく。まず「製造業」の対応策については、「北区産業のブランド化による魅力の向上」。これは、非製造業や商業についても同様のことがいえると考えている。

次に、「区内企業同士の重層的な連携体制の構築」。中小企業同士の連携のほか、大手企業と中小企業の連携についても連携体制を構築できれば、新しい製品やサービスの創出がより効果的に行えるのではないかと、というご意見ではないかと考えている。

また、「オープンファクトリーや工場見学などによる事業所と地域との接点創出、相互理解の促進」は、外部の人や観光客を呼び込むためだけでなく、住民の方の地域への愛着の醸成にもつながる、というご意見ではないかと考えている。

- ・次に「非製造業・商業」の対応策については、消費内容の変化への対応、人口動態や消費ニーズの変化等に対応すること、多様な事業主体の連携による地域内での経済好循環の創出、シビックプライドの醸成による地域内消費の促進、新たな客層の誘致、外国人材や学生などの活用、地域キーパーソンの発掘・育成などを対応策として挙げている。

なお、外国人住民との共生については多くの委員からご意見を賜り、「共生」については慎重な検討が必要である一方、北区でも外国人住民の方が増えているところ、近年の人手不足に対応するには、外国人材が区内事業者で活躍できる機会を増やすことが有用である、というご意見ではないかと考えている。

また、外国人材のほか、学生や高齢者などについては、それぞれのライフステージや特性に応じた柔軟な働き方を提案することで、多様な視点や発想が生まれ、地域産業全体の活性化と持続的な発展につなげることができると考えている。

- ・北区産業が抱える課題に対し、このような対応策を実施することによって、スライドの一番下に記載のとおり、「変化への迅速な対応による区民の生活・まちの魅力向上」が図られ、ひいては、北区産業全体の活性化につながる、と整理させていただいている。
- ・続いて、5ページをご覧ください。これまでご説明した「区内産業を取り巻く変化」「区内産業の課題」「課題を踏まえた対応策」をすべて踏まえ、皆様のご意見をまとめると、「北区の将来像」はこのような形になるのではないかと考えた。
ここで、将来像について説明させていただく。「将来像」は、産業活性化ビジョンにおいて最上位に位置付けられる、最も基本的で重要な理念になる。産業活性化ビジョンは、概ね 10 年後の北区産業を見据えて策定するものだが、10 年後の北区産業が目指すべき姿が「将来像」になる。そのため、「将来像」は、区が実施する個別具体的な事業を表現するものではなく、大きな視点として、北区産業が目指すべき姿を示すものになる。
- ・お示しのとおり、第1部会の将来像の案は、『産業と暮らし』が調和する循環都市 ～北区への『愛着』が育む産業魅力の創出～と整理させていただいた。5ページの下に、これまでの整理を踏まえた、将来像を作成するに当たってキーワードとなりうるものを列記しており、これらのキーワードをもとに、将来像を作成している。
- ・まず、上段の『産業と暮らし』が調和する循環都市については、第1部会では、「利便性・暮らしやすさ」や「産業と暮らし（生活）の調和」、「職住近接」といった、「産業と暮らしの近さ」に関するご意見が多く出ていた。また、地域内消費に関するご意見も出ていたため、地域内での経済循環の向上を目指す方向性ではないかと考え、このように整理させていただいた。
- ・次に、下段の「～北区への『愛着』が育む産業魅力の創出～」については、先ほどの「課題を踏まえた対応策」でもご説明したが、地域への愛着の醸成は地域の担い手・キーパーソンの増加にもつながり、そうした担い手の発掘・育成や、担い手同士の連携による産業魅力の創出を目指す方向性ではないかと考え、このように整理させていただいた。
- ・続いて6ページをご覧ください。6ページから9ページについては、これまでの部会における、各テーマごとの皆様のご意見を整理したものになる。こちらは参考資料としてご覧いただければと思う。

第1部会の総括の説明は以上となる。

3 議事 部会の総括に関する意見交換 (事務局)

- ・続いて、次第1（3）「議事」に移る。ただいまご説明した部会の総括・とりまとめについて、ご意見やご感想があればお願いしたいと思う。
- ・本日の部会は、「北区の将来像」を含めた第1部会としてのとりまとめ資料を決定することが目的になるので、よろしくお願いしたい。ここからの進行は部会長にお願いしたい。

(部会長)

- ・事務局の方でかなりまとめていただいている。資料に書いてほしい、自分の言ったことが抜けている、違うのではないかとといったことがあればおっしゃっていただきたい。これと第2部会で話し合われたことを突き合わせてまとめていくことになり、第1部会として提案するという形になる。

(A 委員)

- ・とりまとめ資料の文言に関しては特になし。その中の文言の意味することについて、例えば、製造業のブランド化について調べてみたところ、その中で一つだけ自分の心をとられたものがあった。滝野川の中村印刷所で「水平開きノート」が製造され、ネットではかなり好評を博していて、中村印刷所自体もかなり追い風を受けた。そういった物はブランド化のイメージとして該当するという感覚を持っているが、実際にブランド化に関してどういった物があるのか。例えば、北区のある製造業が画期的な商品を開発して、それが世に認知されて、例えばノートであれば、北区の文房具屋で取り扱われて、それが北区で生まれた画期的な商品ということで、そういった物をイメージしているという理解でよいのか。

(事務局)

- ・ブランド化は色々あると思う。公的機関がお墨付きを与えたブランド、あるいは、各事業者が自分たちの売りをブランドとして言っているようなものもある。我々がこれから目指すものは、公的なもの、さらに皆さんの意見を総括すると、公的機関が一定程度お墨付きを与えたものを更に世の中に訴えていく、あるいは我々も知らないような個々の製品をさらにブランド化、磨きをかけていくようなことも含めてブランド化による魅力という表現をしている。

(A 委員)

- ・そうすると、例えば「水平開きノート」のような商品が世に認知されれば、北区の象徴的なものになるという理解でよいのか。

(部会長)

- ・ブランド化は難しい。私は愛知県の愛知ブランドの立ち上げから、勉強会等で関わっているが、地域でのブランド化は難しくて相当準備をしなければならない。京都はある時点で「試作」をテーマにしようということになり、京都府、京都市が支援して「京都試作ネット」という会社を作った。
- ・伝統産業と最先端がテーマであるが、では、北区ではどうしていくのかということ、この会議だけではなかなか「これだ」と決められないので、色々議論をしていかなければいけないと思う。都市型産業なので、回ってみると意外なところに意外なものを作っているところが北区には結構あるので、それを集約していくと一つのイメージができるのではないかなと思う。
- ・東大阪は有名で、何故有名かというと、商工会議所が中心となって「No1 企業が日本一あります」ということで本を配っている。行政や我々から見るとびっくりするが、「シェア日本一」、「このような商品はこの会社しか作らないと思います」ということを沢山やり、全国に配った。「日本一」「世界一」「ここだけです」といった内容はさすがに市役所では配れないので、商工会議所が作って全国の商工会議所に配ったことで東大阪は注目された。かなり戦略的に作っていかなければいけないと思う。

(B 委員)

- ・4頁までのまとめが大変素晴らしいと思い、拝見した。北区の将来像の「産業と暮らし」が調和する循環都市について、「産業と暮らし」の調和は理解できるが、「循環都市」の「循環」が個人的に気になっている。循環都市とは何が循環するのだろうか。おそらく経済の好循環を言いたいのではないかと推測できるが、個人的に疑問を持った。

(事務局)

- ・内部でも「循環」をどうしようかと意見があったが、本日はこのまま表現しようとチャレンジの意味も含めて説明した。先ほどの部会の総括の説明でも出たが、区内の消費の循環から引用した。「都市」という言葉も、そのような止め方がいいのかも含めて我々の中でもまだ決まった内容ではない。

(部会長)

- ・区の中での循環ではないが、例えば、非製造業、商業で大きな問題になってくることは、東京一極集中ではないかという批判で、もっと分散してほしいなど。神戸市長の発言だが、東京都は限界が来ている、つまり、東京都の人口が増えているのは地方からの流入によるものだが、(地方には) 流入させる人口がないので、止まるのではないかという話をしている。今までは子どもが生まれ、大人になって大学に行って、東京で働くということで流入してきたが、地方には子どもがいない。
- ・真剣に考えなければならないと思っている中で、国の意見は「交流人口」。2拠点居住、副業、兼業で、定住することは難しいが、2拠点で住むことや、地方の企業と都市の企業が連携するなどといったことを作っていかなければならない。
- ・「循環」という言葉を「区内の循環」「首都圏の循環」「国の中の循環」という形で捉えて、どこかに説明を示さないといけないが、急に「循環」が現れると驚かれるので、今後ビジョンで記載するときは「循環とはこのようなことを想定しています」といった内容を初めに記載しないといけないと思う。北区の中での循環となると意見があると思うので、もっと広い目で見たらどうかと思う。

(B 委員)

- ・「循環」という言葉を否定することは簡単だが、代わりにどのような言葉が良いかと考えたが、「交流」という言葉を扱っても良いのではないかと思った。例えば、「産業と暮らしが調和し交流する都市」などはどうかと思った。

(部会長)

- ・今日はこれで確定するわけではないので、忌憚のないご意見感謝する。

(A 委員)

- ・「循環都市」に戻るが、キーワードとなり得るものとして「地域内経済循環・変化への対応」と記載されているので、地域内経済循環を意味していると受け止めざるを得ないように感じる。そうすると今の説明と少しズレると思うので、その辺りを整理した方がいいのではないかと思う。

(部会長)

- ・こうやって話をしていると問題ないが、区民の方が見たときに唐突なイメージを持たれるかもしれないので、何らかの対応が必要ではないかと思う。他は如何か。

(C 委員)

- ・今までやってきたことの総まとめで非常に分かりやすいと思う。

(部会長)

- ・他にも何か、製造業と非製造業の強み、弱みのところで何かご意見があればお願いしたい。

(D 委員)

- ・課題をふまえた対応策の中で、「非製造業+商業」の3つ目に「シビックプライドの醸成による地域内消費の促進、新たな客層の誘致」という表現がある。観光関係の内容で話をしていると思うが、主語が分からなくて、シビックプライドの醸成によってこの2つが生まれるということが、私の中で腑に落ちないところがある。シビックプライドの醸成を通じた地域内消費の促進とインバウンド客などの新たな客層の誘致の両面から地域経済の活性化を目指すということと理解できるが、シビックプライドの醸成はここだけではなくて全体に関係することで、インバウンドのことだけではないと思う。
- ・全体に係った方が、シビックプライドの醸成は北区の中で非常に大事な表現だと思っているので、北区の将来像の中に言葉が入った方が、もしかしたらよりしっくりくるのではないかと考えている。

(部会長)

- ・シビックプライドは区民が現在住んでいるところを誇りに思うということか。そうすると、新たな客層の誘致に係らないのではというご指摘だと思う。シビックプライドの醸成は全部に係ってくるので、もう少し別の表現の方が良いのではないかとご指摘だと思うが如何か。

(事務局)

- ・ただいまのご意見を踏まえて、今は文言が思い浮かばないが、そこは適切な表現にしたい。

(部会長)

- ・製造業のブランド化については如何か。

(E 委員)

- ・製造業のブランド化もそうだが、人材確保が非常に難しいと思う。以前ハローワークの方に来ていただいたが、若い人が北区でもっと活躍でき、集まることができないだろうかと言われた。8月5日にハローワーク王子が製造業の工場見学を初めて企画してくれて、我が社でやることになった。人材確保の一環として、製造業だけでなく、ものづくり企業をツアーで巡るといったことができたらいと思う。

(部会長)

- ・資料の7頁に「人材確保・育成」が記載されている。「シルバー人材センター等の福祉施設と産業の連携」ということで、これはこれで大事だが、足りないのかもしれない。

(E 委員)

- ・企業が発展するためには、若い人に沢山集まってほしいと思う。それについては北区とハローワークが連携しながらできないだろうかと考えた。

(部会長)

- ・7頁の「人材確保・育成」については、現場の経営者として非常に人材確保が難しいので、もう少し若者を集めるような何かがあれば良いのではないかとということである。

(事務局)

- ・人材確保については、委員の方々だけでなく、色々な中小企業の経営者の方も言っている。若者も1つのターゲット層だと思うが、広く北区として人材確保をするとともに、流動性が高いので育成の方にも意識を用いたような施策を我々としては考えていかなければならないと思っている。

(B 委員)

- ・我が社も人手不足で大変だが、資料9頁のところに「外国人材の活用と共生の必要性」、「将来の新たな担い手へと育成」、8頁の「担い手の育成」に「新しい世代や若い世代の巻き込み」と記載されており、色々な書き方で書かれていると思う。

(事務局)

- ・どなたが見ても勘違いのない、分かりやすい表記、表現をする。

(部会長)

- ・外国人材について、大学側で人材を供給してほしいということで、奨学金が出ている。条件は地元で就職をすること、日本語検定1級以上を取得することとなっている。
- ・先日、とある大学の先生と話をしていたら、研究開発の人材が欲しいということで、大学院を卒業している人材を希望する企業は英語で対応してくださいということになっている。外国人材の中でも高度外国人材ということで、大学を出ていて、日本人と同額のお給料を払うというような人材を雇いましょうという方向性になっている。
- ・今までのような低賃金、単純労働の外国人材を確保するということはやめていこうという、全体的な流れに

なっている。都市部で大学もあるので留学生も増えると思う。私学はおそらく来年あたり、中国人が増えるのではないと思う。アメリカが受け入れていないので、アメリカに行けない留学生がおそらく日本や他国にまわってくるので、優秀な人材が来るのではないかと期待している。

(F 委員)

- ・北区花火会の運営委員長を昨年からやっていて、現在は第 12 回目になる。そこで非常に良かったと感じていることは、小学生が秋の思い出として北区花火会を、生まれてから地元にある文化として捉えているということに感動を覚えた。
- ・先々週に商店街の事業で盆踊りを開催した。昨年、飛鳥山 150 周年の事業で盆踊りを開催し、その後、うちの商店街で引き受けて 1 日開催してみたが、高齢者から小さいお子さんまで幅広い方々が参加してくれた。今年は 2 日連続で盆踊りを開催し、非常に盛り上がり、盆踊りのときは飛鳥山の広場が埋まった。昔ながらの民謡からボン・ジョビなど色々流したら皆さん大喜びだった。そのとき思ったこととして、小さいときの夏祭りの感覚、小さい頃の「連れて行ってもらった」という文化、孫が生まれたら孫を連れて夏祭りに行きたいという感覚が愛着になるのではないかと。そういった文化を残すことができたらと思い、盆踊りを続けている。この時期になると飛鳥山で盆踊り、飲食、露天等が出店して、中学生はそこで遊んでいる。そういった文化、私たちが昔感じて良かったものを残すことができたらと思い開催している。そういった意味で製造業も含めて、キラリと光る事業者を北区、商店街、東商、そういった機関が応援して、伸ばしてあげるようなことをこの政策で盛り込んだら良いと思う。
- ・伝統文化保存会などは独自の悩みがあって、そこをいかに若者に魅力的に見せてやってみたいと思わせるかだと思う。伝統工芸は一人担い手がいるだけで全然変わる。伝統工芸を継ぐ人、のれん分けなどを募集しますという制度を飲食や製造業でも全体でまとめてシビックプライドにひっかけて、やる気のある企業、困っている企業を少しずつ救っていけばすごいことになるのではないかとと思う。

(部会長)

- ・超高層マンションができると自治会が作られず、結局子供達がお祭りに行くことができないという問題が発生している。防災の観点も含めて今後どうしていくのかという問題がある。お祭りがあるとそこで皆さんが話をするので、地域のコミュニティを作るにはいいと思う。

(G 委員)

- ・資料はよくまとまっていて、なるほどと思った。思ったことは、北区の将来像として「産業と暮らしが調和する循環都市」ということで、耳障りが良くいいと思った。ただ、行政として尖った意見を出しづらいとは思いますが、このスローガンを見て、どのようなまちなのか思い浮かべられる方はそれほど多くないと思う。
- ・例えば、「子育てに優しいまち」「創業するなら事業がやりやすいまち」など、商売がやりやすいということでこのスローガンを見て北区で事業を興す方はどれくらいいるのだろうか。子どもが生まれて引っ越しをするときに北区に引っ越したいと思う方はどれくらいいるのだろうか。このスローガンではイメージがしづらいと思った。
- ・では考えてくださいと言われるとなかなか思いつかないが、ふわっと、ぼんやりともいえるような感じで、北区に来るとこんな良いことがありますよといったことが分かるようなフレーズが入れば、「北区で商売を興そうか」「このまちに住みたい」「現在住んでいるけどここからは絶対に引っ越しはしたくない」などといった方が出てくるのではないかと考えた。フレーズはなかなか難しいし、プロモーションがしづらいということは分かるが、せっかくこういった機会に将来像を出すことになったので、アピールした方が面白いのではないかと考えた。

(部会長)

- ・昔、富山県が「電気代が安い」というキャッチコピーで企業誘致をしたことがあり、すごいと思ったことがあった。福岡県かどこかが起業の内容で「身体1つで来てください」というキャッチコピーで誘致していたこともあった。「北区」というと大阪と言われることが多い。
- ・開場の設営の都合があるので、第1部会はここで終了とする。

第2部会

- 日 時：令和7年7月16日（水）18時15分～19時15分
- 場 所：北とぴあ7階 701会議室
- 出席者：鈴木部会長、熊倉委員、鶴頭委員、畑川委員、油原委員、佐藤委員、平山委員、佐野委員
田辺アドバイザー（欠席：石塚委員、吉野委員）

1 開会

2 部会の総括、議事 部会の総括に関する意見交換 (事務局)

- ・ それでは、次第に沿って進めさせていただく。次第1（2）「部会の総括」及び（3）「議事」になる。（3）「議事」では、部会の総括に関する意見交換を行っていただく。
- ・ まず、資料1をご覧ください。前回の検討委員会では「商店街」及び「区民」をテーマに「強み」、「弱み」、「想定される政策」に関するご意見を頂戴した。前回皆様からいただいたご意見をテーマごとに「強み」、「弱み」、「想定される政策」に分類し整理したものが資料1になる。これからご説明を少しするが、最後の方にまとめとして表でご意見を整理させていただいている。
- ・ 資料1の1ページ目が、商店街の（1）強みのご意見をまとめたものである。（2）は弱み、3ページ目が「想定される政策展開」となる。SWOT分析の形で前回もお話している。①が「これまでどおり強みを活かす」、S×Oの領域になる。それに対する施策が、「多様なターゲット層へのアプローチと連携推進」や「補助制度の拡充」になる。W×Oの領域については「課題がありつつも成長性がありチャレンジする」領域として「商店街の機能拡張と魅力向上」と「連携・体制づくりと地域人材の育成」、「事業承継の推進」、「空き店舗の戦略的活用」になる。5ページは「貸し手（オーナー）の意識改革と円滑なマッチング」である。
- ・ 2の区民について、（1）強みとしては「子育て支援の充実と良好な生活環境」、「創業・ビジネスに適した環境」、「多様な人材と活発なコミュニティ」になる。（2）弱みとしては「多文化共生における課題と治安への懸念」、「地域住民の高齢化」、「創業・就労環境におけるミスマッチと機会不足」、「買い物難民」、「新住民と地域コミュニティとの接続課題」があった。（3）想定される政策展開は、これまでの強みを活かすS×Oの領域として「コミュニティビジネスの促進」、「大学や地域コミュニティとの連携強化」、「若者世代の定住・流入促進」、W×Oの課題がありつつも成長性がありチャレンジする領域としては「アクティブシニアの創業支援」、「働く機会の提供」、「地域理解の促進」、S×Tの領域、強みを活かして外部脅威に立ち向かう政策としては、「多文化共生推進と相互理解の促進」がある。
- ・ 最後の10頁については、今お話しした内容をまとめたものになっている。勝手ではあるが、資料1のご説明とさせていただく。前回の議事要旨については資料2として既にお配りしているので、こちらについては後ほどご覧いただければと思う。
- ・ それでは、部会の総括及び議事に移りたいと思う。部会の総括及び議事の進行については部会長にお願いしたい。

(部会長)

- ・ ただいま議事録を見ていただいたが、それを私の方で咀嚼解釈をしてまとめさせていただいたので、スライドで見ていただいて、大体このような感じで捉えたか間違いはないかという確認をさせていただきたいと思う。そういう進め方でよろしいか。

(異議なし)

(部会長)

- ・それでは進めさせていただくのでよろしくお願いしたい。
- ・スクリーンに沿って、皆様と意見を出し合いながら進めたい。いったん第2部会の議論の取りまとめとしてまとめさせていただいた。私としては非常に感謝している。私は北区在住ではないが、皆様の北区愛を感じさせていただいたので大変誇りに思っている。それを何とか形にしたいと思っているので、まだまだ北区愛が足りないと思うが、ご確認をいただいて皆様の愛情が詰まっているかどうか確認していただければと思う。
- ・2～3分間はイントロだが、開始してから3か月経過している。なので、どうしても議論をして行くと「そもそも何の委員会だったか」「何の為にやっているのだろう」と見失われがちなので、最初にまずアウトプットの形を確認して「ここに向かって議論をしています」ということで、細かい議論をしてきたが、最終的にはまとめないといけないので、まとめの形を最初に確認してそれに合わせてまとめていくように話をしていきたいと思う。
- ・そもそも今回の委員会は、産業ビジョンの設計になるので、10年後の繁栄と10年後の価値創造をするために、どういう10年間を過ごさなければならないかという議論をさせていただいている。なので、委員会の議論でいうと、最終的には区民の豊かさ、幸せを実感できるように産業をどういう風に発展させれば良いか、どういう産業特定をして、どういう風に応援していければいいかということである。区民に還元されることが描かれている。それが描き終わったら最終的には行政に政策を作ってくださいと依頼する。これで間違いないか。

(異議なし)

(部会長)

- ・このような建付けで進めさせていただいている。ここを見失わないように確認をさせていただいた。今回皆様の議論をとりまとめて、最終的に行政にこのようなコンセプトに従って政策を作ってくださいと依頼をする形になっている。突然言っても分からなくなるので、北区と似た環境の地域を一生懸命探してきた。そこを確認していきたいと思う。
- ・北区と似ている場所だが、吹田市をご存じか。大阪府吹田市。人口が北区は37万人、吹田市は38万人で立地環境も近い。吹田駅は大阪駅から9分。北区でいうと新宿まで9分ということになる。新大阪までは5分。首都圏に非常に近くて交通も沢山流れていて、駅も13ある。雰囲気は似ていると思う。実際に産業の規模感、従業員数と事業者数はほぼ一緒だった。卸・小売の売上額もほぼ一緒。比較するには適度な大きさで、ベンチマークをするにはいいと思う。
- ・特出すべき状況としては1つポイントがあって操車場。田端操車場があると思うが、吹田市にもある。これは市としてこの敷地を何とかしようと動いている。雰囲気は本当に似ていると思ったのでベンチマークとして頭の体操をするにはいいと思った。
- ・吹田市は一年前にでき上がっている。私たちより一年早い。ということかということ、産業ビジョンに対して目指すべき方向はこれだとスローガンを掲げ、実施事項も掲げている。そこを具体的に紐解いていくと、地域の取引をもっと広げよう、消費を高めようとするためには色々な企業の開業率を高めようということである。北区はどちらかというと紙産業の企業の撤退が多いと思うが、吹田市の場合は組み立て工場の撤退が多く、そこに誘致しようとしていたり、小規模支援者であるサービスを充実させようということになっている。大体イメージがお分かりかと思う。転換期なので頑張りましょうといった動きが読み取れ、均整がとれた政策だと思う。ある程度バランスを取ってやっていこうということがうかがえる。これを参考にしながら皆さんの意見を取りまとめていきたい。
- ・その中で重要なことが3つある。1つ目のポイントは将来、10年後、今の課題というよりも将来の課題をどのようにしていくのかという考え方をしなければならない。これは前提条件。2つ目はエコシステム。基本的には地域活性化にならないといけないので、ある程度循環しないといけない。北区のDNAとして生態系になっ

ていないといけない。無理をするといずれ折れてしまうので、無理をしないような形にしないといけない。最後は、区民の賛同を得られるかどうか私たちの議論をするときに、形にしていくときに重要だと思う。間違いないか。こういう形で議論を整理していきたいと思う。だいたいアウトプットのイメージは共有できたか。皆さんの意見を振り返りながらまとめていく。

- ・その前に、そもそも学識経験者とは何か。学識経験者の役割とはについて話をしていく。私の役割は色々な地域に行って実証実験をやったり、最終的には論文を執筆したりしている。どちらかという、皆様と議論したことを実際に試してみて、色々なことをやってみて何となく形が見えてくるようなことを仕事としてやっている。実際に皆様の意見を統合して、まとめるとこのような形になったが問題ありませんか、ということを提示させていただく役割である。そのときに皆様にお許しをいただきたいのは、意見を剪定させていただいている。皆様の意見を全部使う事はできないので、ある程度ポイントを絞って、問題ないか確認をするという作業である。全ては正しいわけではない。ただ、ポイントはここですか、ということを確認させていただいている。現在、沢山の議事録があるが、全てを形にすることは難しいので、抽出している。そのような役割だと思っており、ここをしっかりとやろうと思っているので、若干ズレているかもしれないので、そのときは言っていただければと思う。では、振り返りに入りたい。
- ・皆様の意見を取りまとめるとこのような形だが、皆さんいかがでしょうかという形で提示させていただいたの確認をお願いしたい。2026年にこれから作っていくとする概要版は、最初の委員会で説明されたとおりで、産業を取り巻く環境という分厚い資料があったと思う。それを確認して、今回議論させていただいたのは、製造業、製造業以外、商店街、区民の立場を考えて産業ビジョンを考えましょうという内容である。
- ・本日議論する内容はそれを統合して成し遂げたい姿、実現に向けた方針など皆様の意見を取りまとめていると私はこのように認識したけど間違いありませんかということを確認する。最終的には行政でそれに従って政策を作成してくださいと依頼することになると思っている。実際に皆様の関心事、まとめが議事録で配布されているが、それをある程度解釈してまとめたことをこれから説明する。
- ・産業を取り巻く中で沢山の分厚い資料を見たときに皆様の意見で一番多かった内容が、外国人の増加についてだった。これはかなり関心が強い印象だった。次に多かった意見として、外国人は増加しているが工場が撤退して従業員離れが増えているということ。地域で働いている方が減ったと感じているという意見もあった。3つ目は、ご家族をお持ちの方の多くが感じていたこととして、世帯家族は子育てや手厚いことをやっているが子どもが生まれると引っ越してしまうという世帯家族の流出問題。データであるが、30%強の方が子どもが生まれると出て行くというグラフになっている。これは分厚い資料の中から抜粋しているが、これに関心事があるので家族に優しくしていきたいという意見が多かった。4つ目は、単身世帯が増えた。高齢者が個人になったり、流入人口が増えて学生が増えたり、単身者が多いので家族連れが出て行ってしまう。単身者が増えているといった関心事が多くあった。実際に数字で見ると5年で1割増えており、どんどん増加している。
- ・分厚い資料を見て皆様の強い関心事、問題意識はこのあたりにあるのではないかと受け止めた。このあたりを考えていくと、産業の元気、生活の魅力が転換期になっていると感じ、皆様の中にも問題意識としてあるのではないかと思う。実際に産業構造はどうなっているかという、製造業は地価が上がったり、人件費が高騰して製作場所を海外や茨城など区外流出が進んでいるという話を伺った。
- ・製造業以外については流入人口、外国人、高齢化が進んでいるが、それに見合ったサービスが遅れているのではないか。産業の転換期ということで、何となく地域の北区らしさが土着しないのではないか。北区在住だが勤務先は池袋であったり、北区在住だが消費は池袋であったりすることが加速する可能性が非常にあるということ、4つのポイントから読み取った。
- ・今までの産業構造は紙中心だが、維持するかという問題と抜本的に変えるかという議論が産業ビジョンでどこ

の地域でも起こる。そうなったときに皆様の意見はどのような内容だったかということで議論を整理した。製造業、製造業以外、商店街、区民という議論をした。議事録から皆様の関心事を探してみたり、録音を聞いて確認したが、北区らしさは特に抽出したいと思っている。製造業と区民との関係が低い。沢山の良い会社があり、100年続くうどん屋などがあるが関係性が低い、長年支えてきた紙産業の知名度が低いなどの意見が多かった。皆様の中で将来的には文化の象徴として製造業などは根付かせていきたいと考えているのではないかと受け止めた。違っていたら言っていただきたい。

- ・北区の製造業以外はどうしても赤羽中心の飲食店になってしまっている。もっと生活を支えるような、子育てに優しいサービス、区民が交流するような娯楽等があればいいのでは、という意見が多かった。政策として10年後を見据えていくと、生活を豊かにしていくような事業を創出させていきたいと思う。子育てに優しいサービスなどがあればいいのではないかと感じた。
- ・一方、商店街はどうであったかという、商店街は空き店舗が多くなり事業承継できる店舗が少ないなどで、このまま一生懸命頑張っていくと組織が疲れてしまうのではないかと意見があった。とはいえ、区民との交流や関係性を維持させていきたいという強い意向を感じた。商店街を維持するなどと言った話ではなく、交流を支えるような場にしていきたいといったご意見が心の中にあるのではないかと読み取った。
- ・区民については、流入者である外国人が多くて怖いという意見もあった。色々な方々が来るので、地域の愛着ではなくて、独身が多いと交流機会がなくなるので悪循環に近いようなことになり、モヤモヤした感じが伝わってきたので、地域が一体となって何かできる交流（スポーツやお祭り）を整えたいという意見があった。需要と供給のバランスが重要、というまとめ方をした。
- ・皆様からいただいたご意見は非常に素晴らしいと思う。発展的な課題が多い。普通は「これはダメだ」と言うのは簡単だが「こうしていきたい」というご意見が非常に多くあった。北区はとて素晴らしいところなので、文化の象徴として根付かせていきたいと思った。
- ・交流の場さえあればもっと家族連れが増えるかもしれない。そのような言葉が聞こえるような感じがした。皆様の話をまとめると、今までの10年間と違って産業構造を維持するのか、変革するのかというよりも、北区は北区らしくこれまでの産業構造をより豊かに発展させていく新しいやり方が北区らしいと受け止めた。
- ・地域で過疎、高齢化が始まると「新しいまちづくりをはじめます」となってしまう。昔の力のある産業があると今の産業構造を維持するためにもっとお金をかけるということになり、赤字が増えてしまうことになる。そうではなくて、北区はいいところをもっと発展させていこうというような、産業を超えた連携であったり、事業の拡大をしたりといったご意見が多かったと私の中で受け止めた。
- ・最後のスライドだが、最終的に製造業はどのような形でいくかということ、区民と一緒に、今持っている強みを活かしたビジネスを構築するなどである。例えば、今持っている産業を観光にしたりということ。紙なら観光産業にしたりする。ご意見があったが、区内で製造を物産展にするなど。今まではものを作って終わりだったことが、販売ができるようになる。
- ・製造業以外は区民のニーズ、家族連れにもっと優しく、もっと娯楽ができるように、趣味やレジャー産業があるといいと思う。商店街については、区民交流ができるようなサテライト教室があればいいと思う。このイメージは皆様から言葉をいただいたが、商店街の中に趣味の教室があったり、時々行けばいい話だと思う。そうすると皆様が集まると思う。趣味を商品化するなどもある。要は、人が集まるような仕掛けを作ること。区民の皆様との横のつながりができるような関係を促し、充実させていくといった意見にまとめた。
- ・こうして、北区をもっともっと育めるのではないか。色々な資料を見て、議事録を読むのも大変だったがこのようにまとめた。私がまとめた資料の内容に間違いがないかどうかご意見をいただいて、問題なければこれで行きたいと思う。ここを直してほしい、ここにエッセンスを入れてほしいといったご意見があれば教えていただきたい。

(H 委員)

- ・大きな相違は特にはないと思うが、密接に全てが関係しているという話になっていて、1つ1つの課題はありつつも、製造業も商店街も、ものを作っている人達は自分たちで売りたいがどのようにして売ればいいのか分からないということがある。密接に連携しているということが重要だと思う。
- ・発展についてはそのとおりで、新しいものを作ることは、言うのは簡単だが非常に難しいことだと思う。今あるもので強みがあるところを伸ばすことが重要。他の区もそうだと思うが、北区愛は特に多いと感じているので全面的にやって行けたらいいと思う。

(部会長)

- ・大きな流れとして、内容が違うのではないかといいことはなかったか。

(I 委員)

- ・スライドの中に「交流」という言葉が出てきて、「区民交流」「区民間の交流」などあるが、それを実現するために、区民間に限定する必要はないと思う。外からの人がやりたいと思ったことがあって「北区はやりやすい」と思って来る人がいて、どちらかというとそのような方に来てもらえるようなバックグラウンドを整えていかなければならないと思う。こちらがメインではないか。
- ・外の方をいかに呼び込むかということが重要ではないか。最初の振り返りでおっしゃっていただいた、「最後は政策に」といった話について、それを政策としてどのように後押しできるのかをイメージすると、特に外の力は絶対に必要だと思う。
- ・当然区民の方の満足度を上げることは大事だと思う。そのために何が必要かという、政策的にはそこを突き詰めていく必要がある。区の中だけというよりは外の人も使いつつ進めることが大事かと思った。

(部会長)

- ・この後、ドラフトで作った政策もある。おっしゃるとおり、流入人口も増えているのでこの方達が北区に住んで、この方達に北区のファンになってもらわなければならない。そのためには、今住んでいる方々の満足度を上げる必要がある。数字にも出ているが、北区で特に残念なことは、子どもが生まれたら流出してしまう家庭が多いこと。まずは家族連れに土着していただきながら、新しい人達にもそのまま住んでいただくような構造を作っていきたいと思う。外から来られた人達と一緒に、北区を支える構造にしていこうことがポイントだと思う。そういった理解で問題ないか。

(J 委員)

- ・長く議論してきたことをまとめた形で見て、自分の発言や皆さんの意見がこのように辿ったのだと復習になった。結論は区民といかに協同、知ってもらったり、一緒にやっていくことで新しい産業を生み出していくといった視点に集約されているという印象だった。
- ・北区は創業支援のサービスが充実している区だと思う。今回の資料でいうと、商店街の区民交流が創出される機会を提供するということで、サテライト教室や市民の活動に当てはまると思う。また、消費者というよりは自分が作り手側、参画する、自分がここにプライドを持って関わっているといった機会やチャンスが北区にはあると認知されると、子育て世代だけではなくシニアも北区に対して好印象で、こんなにも応援してもらえるのだと感じて、それが生きがいとなって健康寿命の問題につながり、消費者で終わるのではなく夢を叶えられる区に感じると思う。
- ・規模に関係なく、いいものであれば長く製造業として歴史や技術、ノウハウ、設備が整っていることがあるのでそこをマッチングさせて、北区のヒット商品を生み出せるようなチャンスがあると、消費者だけではなく作

り手側として北区で頑張っていきたいという人が引っ越して来ると思う。

- ・浮間ではマンションが建設されていて子育て世代が非常に増えている地区なので、人口構造はいわゆる「ひょうたん型」になる。若い方が増えている地区に関わることが多いので、その方々が北区は子育てしやすく、子育てする中で自分がやりたいことも叶えられるような区のように未来が描けると出て行くことはなくなると思う。
- ・一方で、高齢者が多いことも北区の魅力で、健康寿命が延びていく区である。長野県は健康寿命で有名なように、北区はシニアがやりたいことをやれる区であるといったブランディングができると良いと思う。今いるシニアの方々もやりたいことがあると元気になり、作り手側として根付くといいと思う。

(部会長)

- ・独居の高齢者や若い世代も独居なので、家族連れが出て行ってしまうと残念だと思う。特に話を聞いていて、言い方が悪いが「ご苦労されている」と感じている。だからこそ政策のビジョンで、ご苦労されている今の事例を支えるような政策にしてあげてもっと皆様を活発にしていけることが今回のビジョンで明確にすることだと思う。ご苦労されているという印象があるので、流れを変えていく、発展させていくと良いと思う。

(K 委員)

- ・話を聞いていて、基本的に全て同意である。前回は欠席したので意見はできないが、なるほどと思ったことがある。北区は家族世帯が流出してしまうが、川口は家族が遊びやすいと思う。私の子どもは小さいので、商店街では、テイクアウトだと問題ないが、店内で食べるときどこに入るかととても迷ってしまう。大型商業施設があると行きやすいので、その辺りも原因かもしれない。商店街を子育て世代が使いやすいように支援できたらと思う。

(部会長)

- ・イオンを作るのではなく、北区らしく子どもと一緒に商店街に行くことは非常にいいと思う。そのようなイメージでよろしいか。

(L 委員)

- ・子育て世代がどんどん抜けていくことを知らず、そんなに出て行っているのかと分かり、何も対応ができていないことにショックだった。
- ・北区は既にやりたい方、やっている方はそれなりにいるのではないかなと思う。ただ、それを産業として発展させていない苦しさがある中で「やっていこう」と言われたときに、実は既に頑張っているが、なかなか上手くいかないという本音がある。この先どうしたら上手く回していくことができるかという、おそらく一人でやっても上手く行かないと思う。すぐに結果が出るものではなくて、力が必要で、色々な人を巻き込んでやっているけど上手くいかないという苦しさをどのようにプランに落とし込んで「みんなで頑張ろう」と思えるかということが非常に大事だと思った。一人ではなくみんなでやっていこうということを上手く見せていきたいと思う。

(部会長)

- ・おっしゃったようにそういった芽が出てきていると思う。その芽を後ろから押してあげることがビジョンだと思う。私の前職はベンチャー企業で働いていて、応援する側だった。産みの苦しみがあると思う。一人だと苦しいので政策としてみんなで応援していくと一体感があり、一枚岩になっていくことが良いのではないかなと思う。認識は合っているか。

(M 委員)

- ・発言した内容が色々な委員の方と同じでビックリしている。商店街の立場から言わせていただくと、資料の中で商店街の役割は交流の場を支えて発展させていくことだとあったが、私が言いたいことは1つで、色々な交流を繋げる立場の商店街の地域応援団が必要だと思っている。商店街で何かをしたいという人たちを発展させることにつながっていないことが現状だと思う。
- ・私はこのビジョン会議以外にみらい塾も参加している。ただ、誰が繋げるのかとなったときに、北区内の住人の方々がいるということが重要である。商店街の課題はコミュニケーションの断絶や、若い世代の方々が次の世代から「やってくれないか」と言われても引き受けづらいのが正直な気持ち。忙しいのでやりきれない、事務運営をやることができないという現状がある。
- ・そのような運営を地域の住民が、議事録を作成したり会計を手伝うといったサポートをしたり、今やりたい人達と商店街の双方の話を聞いて、両者をつなげる役割が必要。このような施策を考えると、商店街の地域応援団、担い手は沢山いるが、それを繋げ合う人達が存在していないのではないのか。例えば地区ごとに、浮間なら浮間住民の中の人達で、そうした繋ぎ手になる人がいると思うので、そういう人達で自分の地域を良くしてこういう交流の応援団が作れたらいいと思っている。

(部会長)

- ・おっしゃるとおりで、言い方は難しいが、気合いと根性で頑張っているところを何とかバックアップすることが政策であるしビジョンだと思っている。バックアップをする何かをしっかりと作ってあげなければならないと思う。会社に行けば総務課が全てやってくれる。地域に総務課はないのでそういうことを政策で支えてあげられたら、皆様が本来やらなければならないことに集中できるのではないのか。そういうことにするということがイメージは合っているか。

(N 委員)

- ・賛同する。商店街を見ていくと若者達が結構面白い意見を発言する。それをいかにして取り上げるかということで頭の中がいっぱいになっている。商店街の中は閉鎖的で新しいアイデアも拒否されてしまうこともある。これが一番悲しいが、これをいかにしてピックアップして、協力してあげるかということを考えている。
- ・地区が違っていいので協力できることは協力したいと思っている。横のつながりや連携ができると良いと思う。上手く見つけ出してバックアップしてあげることが大切なのではないかと思う。

(部会長)

- ・おっしゃるとおり、一人の人がいいことを伝達してもなかなか難しいので、みんなで集まってやりましょうという雰囲気になっていくと価値観が合ってくるので、そういった意味でサテライト教室などの場を作ることからスタートすればいいのではないかと思う。

(N 委員)

- ・商店街の若い方に話を聞くと、年配者は全然言うことを聞かないと文句を言っている。ただ、自分が今年配になるとほぼ同じことを繰り返している。この矛盾を何とかしなければいけないと思う。

(部会長)

- ・今のような政策とビジョンで、皆様、アグリー（同意する）でよろしいか。

(異議なし)

(部会長)

- ・第2部会としてはこのような意見で取りまとめたと報告する。これを政策に落としたものを少し見ていただきたい。これを実際にビジョンに落とし込むとどうなるのかということを試案で作成した。

- ・1ページ目に北区の産業を取り巻く環境とあるが、先ほどの話のとおり、私たちの関心事はここです、という内容が示されている。北区の現状と動向については、このような動向になるということが示されている。10年後成し遂げたい姿と大切にしたい価値観については、北区愛をもっと育んでいきたいと思っている。気合いと根性で頑張っており、そこを後押ししたいので、そのような機会提供をするようなビジョンを作っていきたいということである。そのためには、今やっている事業を拡大するようなサポートや、連携を高めるようなサポートなどを政策に落とし込んでいく形になる。
- ・北区愛を醸成するためには、歴史ある産業をもっと観光化したい、ネットワークを構築するだけではなかなか上手くいかない。何かきっかけとなるトリガー、ハブとなることが必要なので、区民が自ら主体的に情報発信したり、教育と連携したりすることによって、区民が参画している、区民が発信している、自分たちが北区を作っているという考えを後ろでバックアップしていくような方向性が必要である。
- ・ご苦労されている委員の方々、先生がいると思う。そのような機会・提供の場を作っていくというコンセプトをまとめて、北区への愛着を育むような産業を作っていくような場をこのようにしていきますと骨子をまとめた。
- ・地域の事例が色々あるが、後は事務局にそれに沿った形でお願いしますと依頼するイメージである。骨子について話をしたが、第2部の総論として、このような方向性で良いかどうか最後に一言ずつ発言をいただいてから部会を締めたいと思う。

(H 委員)

- ・今の意見で全て問題がなく、最終的にどのようにまとめていくのかということが気になっている点である。その点を最後に確認しながら進めていけたらと思っている。今回の意見としては問題ないと思う。

(I 委員)

- ・聞いていて気になった点は、北区愛はいいことだが、それを前面に出すと愛情の搾取になると思う。

(J 委員)

- ・私は元々北区で育っていないので、来たときに北区を愛している人が多いという印象があった。経営者の方は特に個性豊かでそれがむしろ北区の魅力になっているようで、北区は面白いと思った。それをきっかけに大好きになった。私が外から流入したときに自然と愛してしまっているようなことが連携でできるといいのではないかなと思う。どれをやっても間をつなぐ人、間をつなぐ仕組みをどのように合わせるかが重要だと思う。

(部会長)

- ・おっしゃるとおり、ネットワークの構築はハードである。アクセレレーター、要するにつなぐ相手、発信する側が非常に重要。そうすることによって区民が主体的に「この区はいいね、いいんだよ」と発信する環境ができる。区で勉強している学生が区民と一緒に企画をしたりすることは非常に良いことだと思う。ここが一番大事なことだと思う。

(K 委員)

- ・私はこれで完璧だと思う。

(L 委員)

- ・北区愛については、1本にするというよりは、色々なものがかみ合わされるものができればいいと思う。
- ・勉強不足で他の事例を存じ上げないが、アクセレレーターというものがどういったイメージなのか、世の中で

自発的に起こるようなことを裏で作っていくというイメージなのか、今後どのように進めていくのか勉強させてもらいたい。

(部会長)

- ・自発的に「北区はいいところですよ」といった発信をする環境を作ってあげるといいと思う。区民が等身大で話をするが一番いいと思う。学生や区民が「これがいい」と自然に言えることがすごく大事で、メディアが発言してもどうしても表面的になってしまうので、自然発生的に伝播していく、評判が良くなっていくことを目指したいと思う。

(M 委員)

- ・北区愛の愛着について、私が思うには、自分のまちだから良くする、自分のまちに誇りを持つ、自分のことだからやるということで、他のことをやり過ぎるというよりも、自分の地域のことだから自分たちで何とかしようというような自立心だと思っている。例えば、浮間に住んでいるけれど、自分は住民だから何かを主催するのは商店街の人でいいのではないかとということではなく、通りを面白くする主体は自分たちであってもいいと思う。何故かという、自分は浮間が好きだからということ。そういったことが自分のまちに対する愛着なのかと思う。
- ・そういう方がいるということに気付いて、アクセレーターの方、インフルエンサーや芸能人ではなく住民の方が自発的に、多発的に、色々なところで色々な人が出てくるといいのではないかと考えている。

(部会長)

- ・おっしゃるとおりで、北区で一番大事なことはライフイベントだと思っている。子育てにいいまち、ゆりかごから墓場までではないが、そのようなライフイベント全てにおいて、ある程度マルチに環境を整えてあげることが重要。ライフイベントでいうと、家族連れが出て行ってしまうことが弱いのではないかと考えている。そこを充実させてあげれば出て行くことなく、ずっと北区に住んでくれるのではないかと。

(N 委員)

- ・私の考えていたことはだいたい皆さんが言ってくれたのであまり言うことはない。アクセレーター、区民と商店街の横のつながりを大切にして、小さな提案にも皆で考えてあげる、そういった懐の広さが必要ではないかと考えている。

(部会長)

- ・皆さんのご意見として概ね承認をいただいたということでよろしいか。

(異議なし)

(部会長)

- ・最後に、上位組織である産業振興会議委員のアドバイザーから一言お願いしたい。

(アドバイザー)

- ・色々な委員会に出席しているが、ここまで一生懸命やっている先生はあまりいないと思う。皆様の意見をよくここまでまとめたと思った。よくまとめたし、皆様の意見がほぼ取り入れられていると思う。
- ・愛をどうするかなど色々な問題があるが、皆で考えればいいと思う。おかげさまで私も色々な発想が生まれた。例えば、商店街は上手く束ねてサポートしなければならないが、そこまでのマンパワーもお金もない。各商店街でイベントを開催するために、皆でそれぞれ考えて大変な思いをしてイベントを開催している。区からの補助は半分くらいしか出ない。どうしたらいいかという、例えば、どこかの地方都市と連携して全商店街を一週間ごとに回るイベントを企画すると手間は1回で済むことになる。本当は連合会で企画・運営して責任をも

って開催すればいいが、連合会自体もそこまでのマンパワーがないので、アクセレーターだという発想になる。

- ・先生にお願いしたいことは、北区の産業、製造業が衰退した一番の理由は印刷業であること。是非記載していただきたい。10年～20年の間にあっという間に減少した。印刷関連事業者はかなり存在していた。記載されていたようなので、ぜひ大きく記載していただきたいと思う。新しい傾向としてすごいものも生まれていて、明寿庵という、明治堂のパンと葛餅屋とあんこ屋がコラボした店がある。新しいものを作ってブランド化しているといった動きが出ている。行政が何の手伝いもしないのに生まれた。そういった土壌はある。アクセレーターみたいな人がいるとこういった機会がどんどん増えていく。
- ・最後に、子育て世代がいなくなることは北区だけではなく、板橋区も足立区も同じ。理由は埼玉県戸田市と川口市に狙われているからである。彼らは北区などのエリアからどんどん奪い取れと明確に言っている。子育て支援がすごいし、何よりも賃料。賃料が川を超えることで大きく下がるので、子どもが生まれて広い住居となるとそちらに行ってしまう。

(部会長)

- ・こちらの資料を第2部会の総意ということで委員長報告をするが問題ないか。

(異議なし)

(部会長)

- ・それではこれで納品する。多大なご意見に感謝申し上げます。

合同会

- 日 時：令和7年7月16日（水）19時20分～20時15分
- 場 所：北とぴあ7階 第1研修室
- 出席者：中村委員長、鈴木副委員長、田中光委員、熊倉委員、田村委員、丸野委員、鶴頭委員、畑川委員、油原委員、田中崇彦委員、佐藤委員、田中和江委員、中林委員、平山委員、佐協委員、佐野委員、山岸委員、田辺アドバイザー（欠席：溝口委員、石塚委員、吉野委員）

1 開会

2 各部会の総括の報告

（事務局）

- ・次第2（2）「各部会の総括の報告」になる。
- ・先ほどまで各部会において総括を行っていただいたので、各部会の意見の統合のために、まずは、第1部会・第2部会それぞれの総括・とりまとめについて部会長からご報告いただき、内容を共有させていただきたいと思う。資料については、スクリーンに投影させていただく。スクリーンを2カ所用意しているので、どちらか見やすいスクリーンをご覧くださいと思う。
- ・それでは、まずは第1部会の報告をお願いしたい。

（委員長）

- ・お忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。
- ・区の産業の課題ということで、北区の製造業に関してはイメージが逆であると思う。都内で言うと墨田区、大田区に比べると、北区は製造業のイメージが出てこないといった意見もあった。事業者同士のつながりやネットワークが希薄なので、そういったものを作っていく必要があるのではないかとという意見もあった。技術や製品の面でも課題があるのではないかとという意見があった。
- ・非製造業・商業は、製造業と同様の経営課題があり、基本的には課題は共通している。人口問題、消費内容、周辺環境、ネット通販、特にコロナ禍はステイホームということで、ネット購入することが多くなった。あるいは消費動向が大きく変わってきている。先ほども話をしていたが、海外からの観光客が急増しているが、それをいかにうまく取り込んでいくかが問題。地域商業との連携を作っていくかなければならないということ。
- ・商店街間での連携も不足しているのではないかとという指摘があった。事業所の区外転出による産業担い手の流出、人材の確保、育成なども問題。産業全般の共通課題は、北区全体としてのブランドイメージの確立が必要だという意見があった。ブランドイメージと簡単に言うけれど、どのようにして作っていくのかと言った意見があった。異業種、異分野間での連携の不足、地域内消費の低下、経済循環率の低下、区内で経済がまわっていくことをどのようにしていくかと言っていることを考えていかなければならない。産業や地域組織の高齢化の問題もある。商店街組合長などの担い手がいないからという理由もあるが、70歳、80歳になっても役をやっていることについては仕方がないという部分もあるが、若手にどんどん活躍をしてもらわなければならないということが問題。後継者不足ということで、どのようにして若い方に興味を持っていただくかという課題がある。
- ・タイムリーだが、今回の選挙で外国人住民が増加して色々な問題があるので、どのようにして調整していくかということも1つの課題。地域産業を牽引するキーパーソン、新しい方をどのようにして発掘、育成していくかが非常に大きな問題になっている。
- ・第1部会ではこれらを踏まえて色々なご意見が出た。北区の産業は何か、強みは何かということで、ブランド化が必要だと言った意見があった。先ほども出た、連携体制を構築する必要がある。私も都内だと八王子、京都

府もやっていますが、中小企業が連携をしていく、色々なところで協力をしていくことが重視されている。

- ・最近ではオープンリソースという形で大手が情報を開示することも増えており、愛知県名古屋市では進んでいる。大手と中小のマッチングも進んできている。製造業の場合、扉を閉めていると中で何をやっているのか分からないということで、できるだけ工場を開けたものにしていこうということで、委員の中にもそういったことをされている方がいらっしゃる。地域の中で接点を創出していく事が重要である。
- ・繰り返しになるが、非製造業・商業は消費内容の変化にいかに対応していくかが重要になってきている。そのためにはインターネット、AIなどを中小、個人でも使っていかなければならない。多様な事業主体については、国がスタートアップということで、新しい企業など若い方が在宅でも起業することを国が全面支援することになっている。そういったことをいかに連携していくかという課題がある。
- ・自宅で商売をやっている表に出てこないと、他社との連携がないという問題があるが、そういった方達との連携を作っていく必要もある。シビックプライドは区民が誇りに思っているということだが、それによって地区内での消費、あるいはお祭り、花火大会でコミュニティを作っていく中で顔なじみになって地域の中で仲間を作っていくことになる。
- ・あるいは、新しい顧客を誘致する形が必要で、その中に先ほどから出ている外国人人材や、大学もあるので、学生といった方達に積極的に参加していただくようなことをやっていかなければならない。将来像としてはまだ決定案ではないが、全体的な意見をまとめると「産業と暮らしが調和する循環都市」ということになる。循環都市という言葉がよく分からないといった意見があった。もう少し言葉として調整が必要である。北区への愛着が育むということで、下に記載されているような様々なことを一つひとつやっていかなければならない。どれが大きいということではないが、一つひとつやっていくことが重要であるという話になっている。第1部会としてはこのような意見が出た。

(事務局)

- ・続いて、第2部会の報告をお願いしたい。

(副委員長)

- ・開始が遅くなり大変申し訳ない。第2部会の皆さんの意見を取りまとめたのでご報告申し上げます。今回、産業ビジョンについて、前提条件、資料、議論をふまえて、最終的にはどのようなコンセプトになるかを確認した。それについてご報告申し上げます。
- ・産業を取り巻く環境については分厚い資料があったが、第2部会の関心事としては、流入人口が非常に増えていること。特に外国人が増えている。それに対して非常に関心が高いけれど、実際は従業員として地域で働く人達は減少している。
- ・特に着目したい点として、世帯家族が流出していることが目立っている。ここに歯止めを何とかしたいと思っている。核家族、単身世帯が増えている。高齢者の単身世帯、もしくは若者の流入人口だが、家族になってしまふと外に出て行ってしまう特徴がある。このあたりを第2部会では関心を持っていたので、この辺を重要なポイントとして議論をした。
- ・その結果、産業構造で認識した共通言語としては、製造業は流出してしまっている、ということだった。製造業以外は流入人口が増加して区民の環境が変わっているが、それにキャッチアップした産業が形成されていないという意見があった。第2部会では産業の転換期を委員の皆様と総合確認をした。そうすると、言い方が悪いと思うが、区民の生活としては、地域住民に少し優しくないと感じている。(北区の)近隣で働いて、近隣で消費して(北区には)帰るだけということはお避けたいということを確認したことをご報告申し上げます。
- ・実際にどのような議論が出たかトピックでまとめた。産業系と生活系で、第1部会と一緒だが、特に産業系に

については関係性、製造業以外は、家族連れに優しいような産業が少ないのではないかとということで、どちらかといえば区民の生活を豊かにするような事業を創出させたいという意見があった。商店街については空き店舗が増えている、区民との交流が減っている、商店街の定義を少し変えて交流を支える場に発展させていきたいという意見が非常に多くあった。

- ・区民については、色々な方々が来ているのでもう少し土着するような、交流を支えるような環境がもっとあった方がいいのではないかと意見が非常に多くあった。これについては委員の皆様と先ほど共有して、これについて相違がないということを確認した。
- ・最終的に第2部会では、これまでの産業構造である今まで作ってきた北区の素晴らしい産業を維持するという議論と、転換期なのでこれを革新していくという意見があった。結果的に、第2部会では今ある基幹産業をより発展させるような業容の拡大、垣根を越えた連携というようなことをやっていきたいという意見をまとめた。
- ・産業についての最終的な結論としては、区民と育める新たなビジネスを構築する、製造業以外については産業拡充をして家族連れにも優しいサービス産業を拡充していくということである。商店街については交流の場を作って、区民については皆様が活躍する場を作っていくというような「地域愛」を創造して、ビジョンを作っていくという意見をまとめた。
- ・コンセプトとしては北区愛を育む、機会提供をするような産業ビジョンを作っていくという意見があった。そのためには業容を拡大する、今ある産業を拡大する必要がある。さらには、区民間連携でライフイベントに沿った、ゆりかごから墓場までではないが、ずっと北区に住んでいただくような、ずっと働きがいのあるところ、ずっと生活しやすさがあるところ、どのライフイベントに沿っても北区はいいねというような産業構造を成立するような需要の創造、ネットワークの構築が大事である。
- ・何よりも一番大事なことはアクセレレーターである。要するに接着剤となる方々が主役となって発信をするような産業構造を作っていくことで、正直者が馬鹿を見ないような文化を創っていききたいということが第2部会でまとまった意見である。

3 議事 各部会の意見の統合に関する意見交換 (事務局)

- ・次第2(3)議事「各部会の意見の統合に関する意見交換」になる。席上に配付した「意見の統合について」と題する資料をご覧ください。
- ・こちらは、第1部会・第2部会でいただいたご意見をとりまとめて整理した資料になる。まず、事務局から、各部会で出たご意見を整理した内容をご説明し、その後、各部会の意見の統合について、皆様からご意見やご感想を賜りたいと思う。
- ・1ページは、第1部会・第2部会でのご意見(課題を踏まえた対応策・方向性)のうち、「製造業」と「非製造業」を整理したものになるが、全体的に、各部会で出たご意見は共通する部分が非常に多い結果となった。
- ・この表の見方だが、丸数字を振っており、各部会のそれぞれの数字がリンクする形となっている。例えば、製造業について、第1部会の①「ブランド化による魅力向上・情報発信の強化」と第2部会の①「業容の拡大、基幹産業のブランド化・PRの強化」は、ブランド化の推進・情報発信の強化という共通のご意見があったことを示している。時間の都合もあるので、一見すると同じ意見には見えない可能性がある意見をいくつかピックアップしてご説明したい。
- ・「製造業」の③、第1部会では「事業所と地域との接点創出(オープンファクトリー、工場見学のモデルルート設定など)」、第2部会では「産業観光・地域体験の推進(物産展、体験会など)」と記載している。第1部会では、オープンファクトリーや工場見学、ツアーなど、製造業の方々に外部に出ていただき、地域に開かれた環境を構築し、事業所と地域の接点を創り出すことで、製造業の盛り上がりや、地元住民の地域への愛着の醸成

がなされるのでは、という意見になる。一方、第2部会では、製造業と区民との関係性があまり高くないのではないかとのご意見があり、製造業の物産展や体験会など、産業観光化することにより、北区の製造業を地域に根付かせることが重要ではないか、という意見になる。いずれのご意見も、製造業を地元住民や外部の方に公開することにより、製造業の活性化と地域への愛着の醸成がなされるという点で共通した意見であると捉えている。

- ・続いて「非製造業」の⑦をご覧ください。⑦については、第1部会と第2部会でやや異なる意見になる。第1部会では「スポーツ関連産業の推進」、第2部会では「区民ニーズに対応するサービス産業の拡充」と記載している。第1部会では、北区はトップアスリートのまちを謳っており、東京ヴェルディベレーザというプロスポーツチームやナショナルトレーニングセンターの存在のほか、アスリートから教えてもらうイベントや高齢者向けの運動イベントも充実しており、スポーツ関連産業に焦点を当てると商業的なチャンスや地域の活性化につながるのではないかと、という意見になる。第2部会では、コインランドリーの一角にスペース貸しをしているお店が区内にあるなど、コミュニティの拠点になるような仕掛けがあると、地域の方も外部に行かずに地域内での消費が活性化するのではないかと、という意見になる。スポーツに関連する産業と生活に密着した産業という、業種としては異なるものになりますが、趣旨としては、地域内の活性化を図るという点では共通したご意見であると考えている。
- ・続いて2ページをご覧ください。「商店街・商業」と「区民」に関するご意見を整理したものになるが、こちらについても、全体的に、各部会で出たご意見は共通する部分が非常に多い結果となった。
- ・「商店街・商業」の⑥をご覧ください。第1部会では「高齢化への対応」、第2部会では「事業承継の推進」と記載している。第1部会では、商店街の個店経営者や商店街役員の高齢化が進み、イベントの開催が困難になっているなど、何らかの対応をする必要がある、という意見になる。一方、第2部会では、商店街の事業承継は構造的にやれているところがないが、北区ではやっていく必要があるのではないかと、商店街の事業承継計画を支援する必要があるのではないかと、というご意見になる。いずれのご意見も、商店街組織ないし商店街の個店について高齢化が進んでおり、商店街や個店の衰退につながっているので、地域商業の維持・活性化のために、高齢化対策・事業承継対策が必要ではないかと、という点で共通した意見であると捉えている。
- ・最後に「区民」の②をご覧ください。お示しのとおり、②は人材活用で、第1部会は学生や高齢者、外国人材、第2部会はアクティブシニアとなっているが、多様な人材を活用するという点で共通している。
- ・各部会で出たご意見の説明は以上になる。ここからの進行は委員長にお願いしたい。

(委員長)

- ・今回は変則的に第1部会、第2部会と別々に開催したので、お互いに「違うのではないかと」「これはどういうことか」などあると思う。各部会で出たご意見は、打ち合わせも何もせずに開催したのだが、意外と共通する部分が多くあった。ご意見と言うよりも確認という意味合いが大きい。ご意見のほか、自分が所属していない部会の意見に対する感想などでも構わないので、皆さんからコメントをいただければと思う。
- ・事務局からご説明いただいた内容の確認だが、意見の統合について、今日で決定ではないということを事務局から言われている。皆様のご意見をまとめていこうということで似通った意見をまとめた。先ほど両部会で若干違う部分があると説明があったが、追加で言うと、第1部会の「商店街・商業」のところで、高齢化への対応という内容については、お客様の高齢化ではなく、商店街を始めとする経営者の高齢化の問題であって世代交代の必要があるといった意見が皆様から出たということ。従って事業承継につながっていくということである。
- ・ここはもう少しこの表現でとか、ここはどういうことかなど聞いていただけたらと思う。

(O 委員)

- ・第2部会の意見について、初見なのでコメントに戸惑っているが、どちらも非常に似通った意見が出ているということは、まさに北区に根ざした考えをどちらの部会の参加者の方も持っているということで、同じものをベースに考えたら同じ問題意識が共有されていった上で、提案が似通ってくるのだと思った。
- ・だからこそ、付加価値の向上そのもの、全体のイメージ像は良いものだと思っているが、茫漠としているという問題認識が共有されたということが重要であると思う。北区は良いところである、素晴らしいところであると皆思っているが、何がどういいのか、さらには外部の人に対していいところだから来てくださいと言うには何がいいのかということを手く伝えられない状態であることは間違いないと思う。意見を統合するに当たってついつい、何となく茫漠としてしまいがちだが、できる限り具体的な形で落とし込む必要があるのかと思う。

(委員長)

- ・国の報告書ではエッセイのような、実際の好事例を掲載しているので、そういった記載があってもいいのではないかという意見もあった。製造業として、E 委員はネットで情報発信をしており、オープンファクトリーや工場見学を開催されているが、一部の人しか知らないもので、どうということが問題と思っているかなど意見があればお願いしたい。

(E 委員)

- ・年間 100 社程度工場見学をやっていて、若い人材を募集したいがどうすればその人達に来てもらえるのか問題。魅力ある色々な企業があるが、若い人達に見てもらえるようにするためにはどうするかが問題。色々な企業を1日で回るようなツアーや企画があれば色々な人に知ってもらえると思う。地元の人達にもっと応援してもらえるような企画があればいいと思う。

(委員長)

- ・第2部会の製造業の方からはいかがか。

(H 委員)

- ・今の意見で色々な企業を回ってみたらということだが、まさしくお互いのいいところや知らないことを共有できるので、あったらいいと思う。製造業はものづくり、製造することが主だが、今は販売も直接しなければならぬ。商店街と連携をしながら自分たちも店を出すとか、販売をする方達が沢山いるのでそこからノウハウをいただいて連携しながらやっていくことも必要ではないかと思う。製造業と非製造業を分けることも難しいという話もある中で、今後、製造業もそれだけやっていくには難しいので、他分野で進出していかねばいけないと思う。

(委員長)

- ・今おっしゃったように、製造業と非製造業の境目が曖昧になってきていて簡単にはいかなないと思う。

(B 委員)

- ・E 委員からも出ていたが、とにかく人手不足と雇用が難しいということが課題だと話があったが、弊社でも外国人という高度人材の募集をしたいし、獲得したいのだが、その場合、英語で我が社の社員が高度人材の外国人の方に指導しなければならぬが、実際は難しい。大手は既にやっていると伺った。中小企業では技術もあって英語も話せる人材はいないので、難しいということを実感し、非常に苦戦している。

(委員長)

- ・以前、山梨大学とジェトロの共同シンポジウムがあり、技術開発等をしたい企業が大学院生を雇う場合は英語を理解していただかないと雇うことは難しいとはっきりとおっしゃっていた。共通言語として英語を話せるということは非常に重要である。

- ・他はいいが、あとは非製造業系だが、大体皆さん同じような意見が出ている。商店街や商業は空き店舗が増えてきている問題がある。高齢者問題は、高齢者側からすれば後継者がいないからリタイアできないが、若い方からしたら早くリタイアして欲しいということ。事業承継問題は全国で問題になっている。一方で起業する、新しく企業を立ち上げていくことも大事である。J 委員、その辺りいがか。北区内での女性の起業について、全国的にスタートアップに着目されているので、何か感想があればお願いしたい。

(J 委員)

- ・第2部会では、商店街も区民も製造業も非製造業も、いかに区内で連携を取って、今ある産業を発展させていくかという話になったと思う。私たちは産業振興課と一緒に、創業をしたいけど何からやればいいのか分からないという創業の種のような方達にサポートをして、開業届を出す。北区自体は創業支援、サービスが充実していて、やりたいことがはっきりすれば皆さんが自分でコミュニティを選び、進んでセミナーを受けたりする方が多いので、そこまでのサポートをしている。
- ・案の中にもあったが、北区に住んでいるアクティブシニアでも子育て中のママでも何かをやりたいという方がすごく多く、会社で働いていても副業や複数の仕事をすることで可能性を探っている。一社に勤める時代ではなく色々なことにチャレンジしなければならないという時代の変化もあり、そういう方達がすごく増えているので、そういう方達がチャレンジしやすいような北区になると可能性が広がると思う。
- ・人材不足等の課題はある。私たちが気を付けていることは、将来像の話の際に、区のサービスだと自分たちは受益者だという意識が高いと思う。自分たちは小さなことでも作り手側にまわるとか、自分たちが何か手を上げてできるといった意識改革があると、もっと社会に参加する方が多いと思う。

(委員長)

- ・スタートアップに関しては非常に注目を浴びていて、どちらかというと取り合いで非常に重要である。企業支援をされていると思うが、いがか。

(K 委員)

- ・私は北区で創業して、産業振興課の支援を受けてやってきたが、創業には2つの方向があると思う。小さいビジネスの方が商店街の活性化にはいいと思っている。その方向にブランディングをしていくと創業したい人が集まってきて個性豊かな商店街になるのではないかと考えている。もう一つの方向は10億、30億などで大きな会社を作るといった力強い経営者を目指す方向があってもいいと思う。

(委員長)

- ・産業ビジョンは国の方向性と全然別の方向でもいいという意見もあるが、役所としては国がどの方向に向いているのかに合わせていくことも大事だと思う。そこに国がかなりのお金を落としているが、日本の中で企業数が減少していることが問題で、商店街で創業することになると、何十億を目指すわけではないが、小さな創業は重要だと思う。

(L 委員)

- ・先ほどからオープンファクトリーの話が何件か出て気になっていた。豊島区は文化のまちとして子ども向けの文化事業の企画をしている。豊島区のものづくりをしている会社と子供達の接点を作るような大きなイベントを企画している。子ども向けの工場見学は楽しくやりたいと思っている。
- ・北区のものづくり、製造業を子ども世代、親子世代に浸透させることによって愛着を高められるなら、豊島区が文化で行くなら、北区はものづくり、JRの鉄道だったり、特徴を持たせて、比較的簡単に楽しくできるのではないかと聞いていて思った。
- ・各会社で1店舗ずつだと大変なのかもしれない。取りまとめるという大変だが、夏休みに色々な会社とキッズニア企画の工場を見に行ってみようなど、ニーズはあるので特徴を持たせて企画するのはいいな、素敵だなと

勝手ながら思っている。

(委員長)

- ・観光関係としてはいかがか。

(D 委員)

- ・オープンファクトリーの話があったが、これをそもそも誰がやるのかということ。私の部会でもオープンファクトリーは大事だと話はしていた。台東区、墨田区は特に企業が頑張っている。台東区はクラブツーリズムという大手の旅行会社が企画している。伝統工芸を見せてお土産を買わせて経済を回すということをしている。クラブツーリズムは残念ながら大手の旅行会社なので、北区らしさという考え方では区内で誰かがやってくれるのが良いと思う。
- ・結局北区の良いところは、オープンファクトリーがあり、商店街があり、飲食も宿泊もあることで、ネットワークをつないで観光協会が中間支援組織として様々なところでつないでいけると良いと思う。そういう形で各事業者をつないで回すようなネットワークづくりができれば、もっともっと北区に愛着を育むまちづくりになると思う。循環都市について先ほど考えていたが、皆がネットワークでつながって産業化して行くことは非常に大事だと思う。

(委員長)

- ・ネットワークが大事ということがキーワードとして出てきているのではないかなと思う。ご意見があった商店街第1部会の商店街観光について、C委員のご意見をお願いしたい。

(C 委員)

- ・観光振興の一部として、商店街を回るツアーが外部でもある。商店街のお店でご飯を食べて、近くの商店街を回るツアーがあるとお聞きした。できなくもない話でやろうと思えばやれるが、商店街の悪いところはいつも受け身になってしまうこと。自分のところでやればいいのに観光協会にお願いしてしまう。北区お願いします、補助金をくださいと全部お願いしてしまう。
- ・別の話だが、コミュニティバスは、今は王子、駒込を通っていると思うが、土日は少し間引かれて通らない、通過してしまう場所があり、通過してしまう場所に霜降銀座がある。通過地点のところを歩いて行けるように、観光スポットの旧古河庭園もあるし、霜降銀座も入れてくださいとどこかの会で伝えた。そうではなくて、霜降銀座自体をコミュニティバスが通らなくなるという情報を自分たちでキャッチしないといけないと思った。今回の話とは違うかもしれないが、受け身で衰退している商店街はそれが原因かなと思う。

(N 委員)

- ・皆様の話を聞いて頷いていた。商店街は受け身になるというより積極的になれないからだと思う。予算の面や人材の問題もある。色々なことをやりたいけれど、なかなか意見もまとまらない。本当は商店街自体が積極的にならなければならないと思っている。
- ・商店街がまちの雰囲気を作ると私は思っている。豊島区は文化だとあったが、私はそういった話が好きで、アートや文化を商店街自体が演出をするぐらいのパワーが欲しいけれど、なかなかそこに持っていくことが辛いと思う。

(F 委員)

- ・両部会のテーマとしてある「愛着」について、先日7月5日、6日に飛鳥山盆踊りを開催して、9月に花火会を開催する予定である。両方に共通する良いところは、昔からの日本の文化ということで、私の祖父母の代からあり、私が子どもの頃もあり、私も子どもと一緒にいる。文化として残すということがまちを作っていくのかと思う。現状の商店街の機能を活かし切れていないと感じている。73の商店街が50弱になった。商

店街をもっと魅力的に、是非組合に入りたいと言ってくれるように変えていけたらいいのではないかと感じている。

(委員長)

- ・お祭りなどを通じて皆さんと交流していくことは非常に良いと思う。

(副委員長)

- ・第2部会で非常に重要にしていたことは、目的をどこに置くかということ。産業ビジョンなので10年後の繁栄のために何をしていくかということになると、10年後に大事なことは何なのかということになる。大事なことは、北区に住んでいる人達が豊かになるために、ライフイベントに沿った産業発展をしていく、メッシュを細かくしていくことが第2部会で議論になった。何のためにやるのかということのを大事にしていきたいと思っている。

(委員長)

- ・第1部会、第2部会で活発なご意見をいただいた。事務局の方はまとめるのが大変かと思うが、次回が最終回となる。

(M 委員)

- ・「商店街・区民」のところでは第1部会、第2部会共通で思ったのだが、担い手はいるがそれぞれがバラバラになっているところが問題で、それを接着するような役割が必要だと思う。第2部会の中で副委員長がアクセレレーターの話をしてくれた。接着剤となる地域住民の中でもそういった応援団とか住民の方々がこれだけいて、愛着を持っている人達が商店街や高齢化しているところとつながっていないことが問題だと思う。どういう風につながっていくかという、何か取組として、施策としてつながっていくというのが大事ではないかと思う。今回、副委員長の資料の中でもアクセレレーターは大事であると記載されていた。そういうところが接着剤としての何らかの取組につながればと思っている。

(委員長)

- ・ご意見をふまえて次回までに事務局がまとめて、次回もう一度ご相談をさせていただくということでよろしいか。皆さんまだご意見があると思うが、思い出したり、今日意見が言えなかったのであれば事務局に個別にご連絡をいただいたりして、次回に向けて準備したいと思う。
- ・これだけ人数がいるので皆様に納得いくまでお話をいただくことは難しいが、今日はお互いの意見が初めて出てきたので、何かありましたら事務局へご連絡をいただければと思う。いただいたご意見は事務局で整理し、各部会の統合については委員長と副委員長でとなっているが、次回もう一度あり、これで決定ということではないので、ご意見があれば個別に出していただいて次回に反映させていただく。

4 閉会

(事務局)

- ・皆様、各部会の意見の統合についてご意見を賜り感謝申し上げます。ここからは事務連絡となる。
- ・引き続きお手元の資料の3ページをご覧ください。3ページには各部会の将来像の案が掲載されている。それぞれお示しのとおりだが、一部修正の可能性もあるので、第7回検討委員会では各将来像についての意見交換をお願いさせていただく予定である。
- ・続いて4ページをご覧ください。こちらは基本戦略のイメージとなる。基本戦略は将来像を実現するためのいわゆる道しるべになり、お示しのようにいくつかの戦略を設定する予定である。

- ・最後に5ページをご覧いただきたい。こちらは施策イメージになる。施策イメージは、基本戦略を踏まえた上で将来像を実現するための方針及び具体的な施策で構成されている。基本戦略及び施策イメージについては事務局で案を作成して皆様にお示しする予定である。資料の説明は以上になる。
- ・そのほかの連絡事項は2点、1点目は、次回の検討委員会は8月25日（月）午後2時から開催する。内容は各部会の意見統合結果の報告や、ただ今説明したとおり、将来像等を含めた統合版資料についてご意見を賜る予定である。2点目は、資料2として前回の議事要旨を作成しているので、議事要旨につき誤り等があれば、7月25日（金）までに事務局にご連絡いただければと思う。
- ・駆け足になったが、以上で第6回北区産業活性化ビジョン検討委員会を閉会する。

以 上